正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

ICRC

赤十字国際委員会 ニュースレター

8月号 2021



特設ページはこちら

10年前の2011年７月９日に誕生した、世界で一番新しい国「南スーダン共和国」。独立以来、赤十字国際委員会（ICRC）は、帰還民や避難民への支援・保護、離散家族の追跡調査や再会支援、収容所の訪問などを継続して行ってきました。2013年に内戦状態に入り、翌年にはICRCにとって世界最大規模の人道支援を展開する国となりました。以来、常にトップ３に入っていて、国民は食料不足や度重なる避難生活、大切な家族との離別など、悲しい現実に直面し続けています。駐日代表部では特設ページを開設し、「数字で見る南スーダンでの過去10年の活動」、「現場で働く戦傷外科医インタビュー」などを紹介しています。

世界のトレンド



核兵器禁止条約Q&A

今年１月、核兵器を禁止する国際人道法上初の法規として発効し、来年１月に第一回締約国会議がオーストリアで予定されている核兵器禁止条約。条約に批准している国はどこ？条約発効で何が変わるの？核兵器不拡散条約（NPT）との違いは？そんな疑問に、ICRCの核兵器担当政策顧問が答えています。多くの方々の目に留まり、好評をいただいているコンテンツです！

詳しくはこちら



13歳の時に広島で被ばくしたサーロー節子さん。核兵器根絶のため、精力的に活動しているサーローさんの願いや、核兵器禁止条約の意義などを語っています。長崎で被ばくした下平作江さんも核兵器の残酷さ、被ばくした人たちの苦しみを語り、核兵器廃絶を訴えています。

核兵器禁止条約発効：特設ページはこちら

紛争の現場から

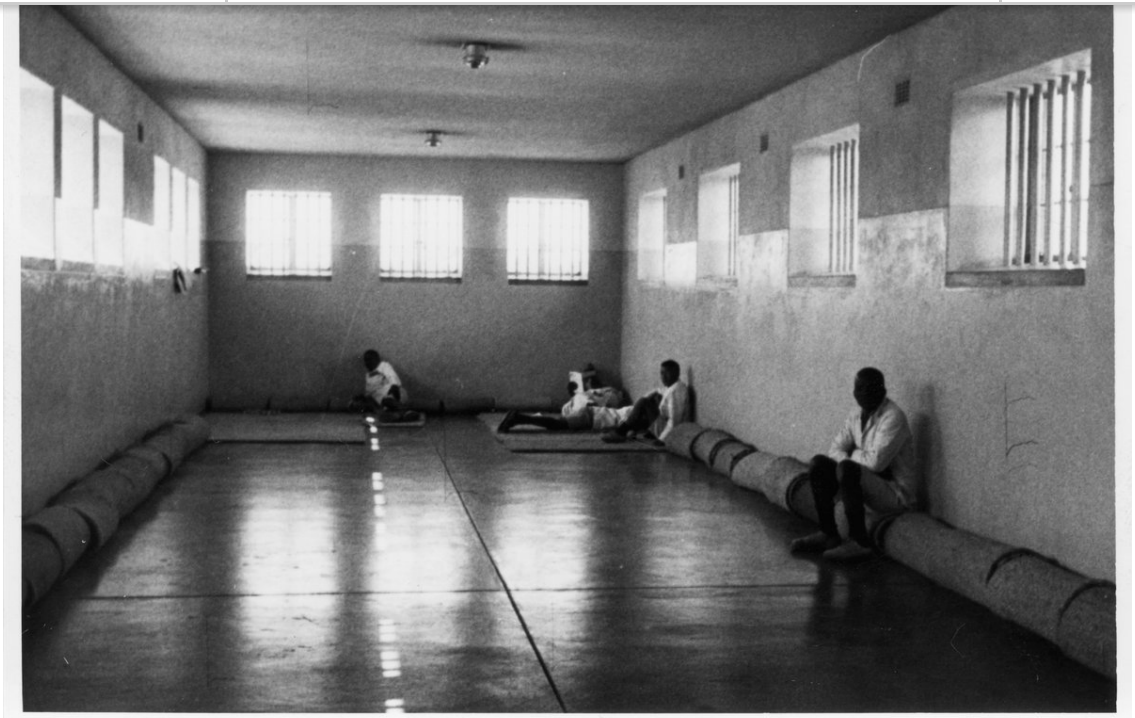


シリア、行き場のない人々

シリア北東部のアルホル難民キャンプには約６万人が暮らし、出身地は60カ国以上に及びます。その９割を女性と子どもが占めていて、キャンプを出ることもままならず、絶望感がまん延しています。特に子どもは、暴力行為を受けていたり、成人向けの収容所に移されたりしています。小児医療や外科治療などの医療サービスも不足していて、予防可能な病気で亡くなるケースが後を絶ちません。ICRCで中東地域を管轄する事業局長、ファブリツィオ・カルボーニが、アルホル難民キャンプの現状を報告しています。

詳しくはこちら

日本人に知ってもらいたい！



ネルソン・マンデラとICRC

７月18日は、南アフリカ共和国元大統領のネルソン・マンデラ国際デー。ネルソン・マンデラは反アパルトヘイトを訴え、1964年から1990年までロベン島刑務所に収監されていました。ICRCが当時訪問していた収容所の一つがロベン島刑務所であり、彼とも何度もかかわりを持ちました。彼はのちに、ICRCの人道的介入への感謝を著書で語っています。収容施設に足を運んで被拘束者を訪問し、人道的処遇を受けているか確認して改善を促すことは、私たちの大切な活動の一つです。

駐日代表部だより



ICRC駐日代表部では現在、広報インターンを募集しています。様々な国籍を持つ約２万人の職員を抱える国際組織のスタッフとして、一緒に働いてみませんか？

詳しくはこちら



ICRC総裁「2020年、コロナ禍で顕著になったこと」

ICRCはこのほど、2020年の活動報告書を公開。『先行きが全く見通せない中、非常に難しい問題に立ち向かい、状況に適応することが求められた１年だった』と報告書の冒頭でペーター・マウラー総裁が総括しています。新型コロナウイルス感染症や気候変動にも翻弄された紛争地への思い、行動することの大切さなどについても語っています。

詳しくはこちら

その他のニュースはこちら

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

